

## 平成 25 年度 第 2 回 石狩市文化財保護審議会 議事録

■日時：平成 26 年 3 月 18 日（火）14:30～16:10

■会場：石狩市民図書館視聴覚ホール

### ■出席者

#### 石狩市文化財保護審議会委員

- ・村山耀一
- ・小杉康
- ・三浦泰之
- ・加藤和子
- ・鈴木明彦
- ・菅原晴美
- ・宮野裕子

#### 事務局

- ・鎌田英暢（教育長）
- ・百井宏己（生涯学習部長）
- ・工藤義衛（文化財課長）
- ・志賀健司（主査・学芸員）
- ・荒山千恵（主事・学芸員）

### ■欠席委員

- ・百瀬響

### ■傍聴者

なし

■議事

1. 教育長あいさつ（省略）

2. 会長あいさつ（省略）

3. 報告① 平成 25 年度文化財関係事業について

（事務局より報告。内容は配布資料を参照）

小杉：「ミニチュア縄文の木の器をつくろう」について、以前の審議会で手法、安全性など検討事項があったが、実際に実施した際はどのようなになった？

荒山：実物で使用されているハリギリを用いて、あらかじめある程度まで形が整えられたキットを用いた。木取りも観察できるようなもので、それを削っていった。実際の刃物で削るのは危険ではないか、という指摘をいただいていたので、安全な金属製のスクレイパーとサンドペーパーを使用して、木目などを観察しながら体験してもらった。

村山：これは参加者は 1 日で完成できた？

荒山：あらかじめ講師に形を作ってもらっていたので、みなさんほぼ完成した。

村山：木材を掘り込むのも参加者がやった？

荒山：おおまかな形までは講師に加工してもらっていた。

村山：その体験講座とテーマ展「縄文の木の器」は関連していた？

荒山：講座は資料館の展示室で実施した。最初にテーマ展を見てもらい、講師と荒山がギャラリートークを行い、それから体験作業を実施した。

村山：これら事業の中で平成 26 年度も継続して実施するものは、どれくらいあ

る？

志賀：だいたい 8 割くらい、同じものを来年度も実施する予定。

（追加説明：ワークショップ／プロジェクトM、石狩ファイル、いしかり博物誌（市広報の連載記事））

村山：プロジェクトMについて、それに参加している加藤さん、どんな感じか紹介していただきたい。

加藤：まち全体が博物館である、という考え方で、市内にたくさんある自然遺産・文化遺産の魅力をどのように伝えていくか、そんなことを参加者みんなで苦心して考えている。

村山：このレポートに載っている自然遺産・文化遺産のリストアップを見ると、非常にたくさんあることがわかる。

加藤：みんなで話しているうちに、知らなかった石狩の姿が見えてくる。また、これまで自分たちが行ったことのある博物館から、印象深かったものを、お互いに紹介したりしている。

鈴木：このプロジェクトM、4 回目では、私と学生がジオパークの話をさせていただいた。ジオパークは地形や地質だけでなく、植生なども含めてユネスコが認定しているもの。ちょうど私の学生が卒論で石狩地域のジオパークの試案を作ったので、紹介させていただいた。たとえば浜益富士で知られる黄金山も、アイヌの伝説の舞台でもあるが、その一方で火山活動の結果であり、なぜあのような形をしているか、といった自然科学、環境科学の視点からも、見ることができる。雄冬の白銀の滝も景勝地として知られているが、溶岩の流出によって形成された地形である。そういった視点で自然遺産・文化遺産を見ていくと、また新たなものが見えてくる。

村山：このプロジェクトMの成果は公開している？

**志賀**：配布資料にあるように、毎回のレポートを web や掲示などで公開している。また全 5 回が終わったら、遺産めぐりマップなど、こんなことをやった、という成果の展示を予定している。

**小杉**：講座や展示は配布資料に載っているが、博物館活動としてこのようこともやっているなら、これらも活動実績として資料に掲載したほうがよい。

**小杉**：ビーチコーミングなどを始め、いろいろな活動を継続していて定点観測のような成果も蓄積されているので、何か成果としてまとめたものを公開できるとよい。

**志賀**：ビーチコーミングは毎回の最後に、参加者に、見つけた漂着物のリストを書いてもらっている。環境の長期変動を示すものとして、いずれはまとめたいと考えている。

**村山**：そのようにずっと継続して成果が蓄積されている事業も多くあるので、配布資料にも「何回目」などと入ると、わかりやすくてよい。

**鈴木**：年 3 回開催されているビーチコーミングは私も参加しているが、毎回、終了後に学芸員からレポート（見つけた漂着物に関する報告など）が送られてくる。ただそれは参加者にしか送られていないし、参加人数などもわからない、内向きのもの。例えば「館報」などを発行して結果の詳しい内容が広く公開されれば、新しい参加者なども参加しやすくなるのではないか。

### 3. 報告② 平成 26 年度文化財関係事業について

（事務局より報告。内容は配布資料を参照）

**鈴木**：紅葉山 49 号遺跡の出張展示・講座は、小学校 4 年生以上が対象だが、その理由は？

**荒山**：「郷土の歴史」といった具体的なテーマで資料館の見学に来るのは 4 年生

以上が多いため。

**鈴木**：教科書の単元とリンクさせれば、より効果的だと思われる。

**村山**：年間の授業のカリキュラムの中でどう位置づけられるかがはっきりすれば、学校も利用しやすい。この時期、学校ももう計画を固めているので早めに学校と話を進めるとよい。

**荒山**：2月に教頭会で説明をした。また先生方と具体的に話を進めていきたい。

**菅原**：私の翔陽高校では「郷土の自然」という科目があり、入試等にも関係なく比較的自由な内容である。そのような授業であれば受け入れやすいが、普通は時間数にも制限があり、教えなければいけない内容がすでに決まっている。このような講座で何をやるのか、何を見せるのか、が明瞭でないと先生も心配になって利用されにくい。

**鈴木**：「指導案」とまではいかななくても、授業の筋書きのようなものがあるとよい。選択授業、自然体験授業のようなものを活用すれば、導入されやすいのではないか。

**菅原**：人数の少ない学級であれば、児童の反応もよくわかる。まずは小規模な学校でやらせてもらおうと良いかもしれない。また、ぜひ高校でもやってほしい。

**小杉**：「縄文太鼓演奏会」は、どういうもの？

**工藤**：民族楽器をやっている方が、「土器を楽器にしていたのではないか」という想定で土器に皮を張って太鼓として演奏する。それをもとに、広く縄文時代、土器等に関心を持ってもらう意図。会場は砂丘の風資料館の展示室であり、展示を見るだけではない新しい客層を発掘したい。足を運んでもらうきっかけになればいいと思って企画した。

**小杉**：「縄文太鼓説」に関しては、学界では否定的な見解が強い。イベント会社

ではなく教育委員会がやるので、非常にインパクトが強そうであるために、一般の方が「縄文太鼓っていうのがあるんだ」と間違った認識を持たないように工夫してチャレンジしていただきたい。

**村山**：土器は石狩で出土したのを使う？

**工藤**：演奏者は江別出身の方なので、江別で作った、皮を張りやすい形にした土器を使う。

**鈴木**：「縄文オーケストラ」のような演奏会もやられているが、あくまでも芸術作品である。切り口としてはおもしろいので誤解されないようにしてほしい。

**菅原**：推測の部分と体験の部分との線引きには気をつけた上で、ぜひ実現してほしい。

#### 4. その他 石狩紅葉山 49 号遺跡の文化財指定について

**工藤**：平成 26 年度は、紅葉山 49 号遺跡出土資料の市指定文化財への諮問を予定している。木製品が特徴的であるので、それらを指定の対象とするのがよいと考えている。ほかに例のないものであり、サケ漁の道具とセットになって出土しているところは貴重である。2900 点ある全てを指定するのか、資料館で展示しているような特に重要な何点かに絞って指定したほうがいいのか、ご意見などもいただきたい。

**村山**：石狩はサケの文化という点では非常に重要である。市指定文化財はいくつかあるが、その歴史から考えると件数が少ないと思う。江戸期、開拓に関わるものでも、もっと多く指定されていいと考えている。紅葉山 49 号遺跡も希少性のある遺跡、国内でも最古の物が掘り出されていることは、非常に重要視しなければいけないのではないかと。ただ、どの範囲で指定すればいいのか、みなさんのご意見もいただきたい。

**小杉**：他の地域、あるいは北海道などでの木製品の指定状況を、まず調べてみ

るとよいのでは。指定の方向で進めるのは良い。

菅原：遺跡の場所は現在どうなっている？ 場所と出土資料をセットで指定できるとよい。

工藤：道の遊水地になっている。そのような場所を指定するには困難が伴う。それに対して出土資料は石狩市の所有になっているので問題ない。

村山：みなさん、指定の方向で良い、とのご意見なので、対象資料などをまとめて、次回に提示していただきたい。

以上

議事録を確認しました。

平成 26 年 3 月 31 日  
石狩市文化財保護審議会  
会長 村山耀一